

# 有事法制反対ピースアクション 区切り集会

【講演】

## 9. 11から日本はどう変わったか 「日米同盟」という問題

【お話】 武藤一羊さん

武藤一羊 [むとういちよう]

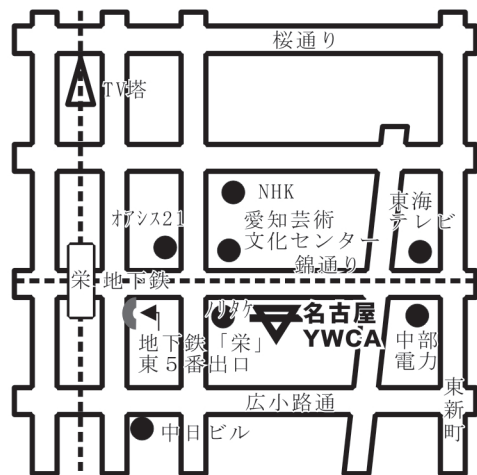
1931年東京生まれ。東京大学文学部中退。初期の原水禁運動の専従、ジャパン・プレス社勤務などを  
経て、60年代ベ平連運動に参加。1969年、英文雑誌『AMPO』創刊、1973年、アジア太平洋資料セ  
ンター（PARC）設立にかかわる。1996年まで代表、共同代表を務め、国際プログラム「ピープ  
ルズ・プラン21」を推進。1998年、ピープルズ・プラン研究所を設立。2001年、アジア平和連合（AP  
A）の創設を推進。著書に、「政治的創造力の復権」（1998）、「ヴィジョンと現実」（1998年）  
、「〔戦後日本国家〕という問題」（1999年）、「帝国の支配/民衆の連合」（2003年）「アメリカ帝  
国と戦後日本国家の解体」（2006年）など

8年にわたって活動をしてきた有事法制反対ピースアクションですが、主要課題であった「自衛  
隊イラク派兵反対」の活動も、一昨年、空自撤退という事態を受けて一応の終結を迎えました。  
有事法制反対ピースアクションの運動が、2001年のアメリカの「同時多発テロ」を契機にブッ  
シュ大統領の「テロとの闘い」によるアフガニスタン攻撃という事態を受けて、「テロも戦争も反  
対ピースアクション」を結成し、その延長としてあったことを思えば、アメリカではオバマ政権が  
誕生し、日本では戦後一貫して政権の座にいた自民党支配が終焉し、民主党を中心とする連  
立政権の登場という時代の変化を感じます。

もちろん、オバマ政権もイラク撤退を言いつつ一方でアフガニスタン攻撃を継続し、戦火はまだ  
収まってはいません。また、鳩山連立政権も、沖縄の普天間基地の移転・名護の新基地建設の問題  
をめぐる混乱など、多くの期待を裏切るような言動を繰り返しています。  
その意味で、ピースアクションが担ってきた反戦・平和運動の必要性がなくなったわけでは決して  
ありません。

しかし、前述したように、ピースアクションが主要課題として担ってきたイラク反戦運動が一応  
の終結を迎えた今、いちど会を解散するという結論に達しました。この間の活動を検証し、将来に  
備える意味でも、政権交代をした今、何が変わり、何は変わらなかったのか、政権交代の意味とこ  
れからの課題を武藤一羊さんに語っていただきます。

ぜひ、集会にご参加ください。



時 / 2010年2月7日 (日)

午後1時30分から午後4時

所 / 名古屋YWCA ビッグスペース

(名古屋/栄/地下鉄「栄駅」5番出口より、東へ徒歩2分位です。)

参加費 / 800円

主催：有事法制反対ピースアクション

(わたしたちは地道で時間はかかっても、平和な方法で、平和になることを望みます)

共同代表：水田洋、寺尾光身

TEL052-731-7517 FAX052-875-5130

peace@ion.ocn.jp

http://www.jca.apc.org/~husen/antiyuzi.htm

地下鉄「栄」東5番出口より東へ2分